

【第2問】

会社員のAさん（30歳）は、将来に向けた資産形成のため、株式や投資信託への投資を検討しており、銘柄を選ぶ際の留意点やNISAの成長投資枠およびつみたて投資枠の活用方法について知りたいと思っている。

そこで、Aさんは、ファイナンシャル・プランナーのMさんに相談することにした。Mさんは、Aさんに対して、X社株式（東京証券取引所上場銘柄）およびY投資信託を例として、株式や投資信託に投資する際の留意点等について説明を行うことにした。

〈X社株式の情報〉

- ・株価：3,300円
- ・発行済株式数：2億株
- ・決算期：2024年9月30日（月）（次回の配当の権利確定日に該当する）

〈X社の財務データ〉（単位：百万円）

	90期	91期
資産の部合計	920,000	960,000
負債の部合計	300,000	320,000
純資産の部合計	620,000	640,000
売上高	700,000	780,000
営業利益	65,000	70,000
経常利益	70,000	72,000
当期純利益	48,000	50,000
配当金総額	15,000	16,000

※純資産の金額と自己資本の金額は同じである。

〈Y投資信託（公募株式投資信託）に関する資料〉

銘柄名：日経225インデックス（つみたて投資枠対象銘柄）

投資対象地域／資産：国内／株式

対象インデックス：日経平均株価

信託期間：無期限

基準価額：14,000円（1万口当たり）

決算日：年1回（3月5日）

購入時手数料：なし

運用管理費用（信託報酬）：0.143%（税込）

信託財産留保額：なし

※上記以外の条件は考慮せず、各問に従うこと。

《問4》 《設例》の〈X社株式の情報〉および〈X社の財務データ〉に基づいて算出される次の①、②を求めなさい（計算過程の記載は不要）。〈答〉は、表示単位の小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位までを解答すること。

- ① 91期におけるROE（自己資本は90期と91期の平均を用いる）
 ② 91期における配当利回り

解答

	90 期	91 期
資産の部合計	920,000	960,000
負債の部合計	300,000	320,000
純資産の部合計	620,000	640,000
売上高	700,000	780,000
営業利益	65,000	70,000
経常利益	70,000	72,000
当期純利益	48,000	50,000
配当金総額	15,000	16,000

$$\text{自己資本} = \frac{620,000 + 640,000}{2}$$

$$ROE = \frac{\text{当期純利益 } 50,000}{630,000} = \text{① } 7.94\%$$

- ・ 株価 : 3,300 円
- ・ 発行済株式数 : 2 億株

$$\text{配当利回り} = \frac{\text{配当金総額 } 16,000 \text{ 百万円} \div \text{株式数 } 2 \text{ 億株}}{\text{株価 } 3,300 \text{ 円}} = \text{② } 2.42\%$$

《問5》 Mさんは、Aさんに対して、X社株式を購入する際の留意点等について説明した。Mさんが説明した次の記述①～③について、適切なものには○印を、不適切なものには×印を解答用紙に記入しなさい。

- ① 「X社株式のPBRは1倍を下回っていますが、PBRの1倍割れだけをもって割安と判断するのは注意が必要です。株式に投資する際は、他の投資指標とあわせて同業他社の数値と比較するなど、多角的な視点で検討することが望まれます」
- ② 「NISAの成長投資枠では、X社株式のような上場株式のほか、上場投資信託（ETF）や毎月分配型の投資信託、社債などが対象商品とされており、その年間投資枠は240万円です」
- ③ 「Aさんが、NISAの成長投資枠でX社株式を購入し、受け取った配当金を非課税とするためには、配当金の受取方法として株式数比例配分方式を選択しなければなりません」

解答

× ①

	90 期	91 期
資産の部合計	920,000	960,000
負債の部合計	300,000	320,000
純資産の部合計	620,000	640,000
売上高	700,000	780,000
営業利益	65,000	70,000
経常利益	70,000	72,000
当期純利益	48,000	50,000
配当金総額	15,000	16,000

・株価：3,300円

・発行済株式数：2億株

$$PBR = \frac{\text{株価 } 3,300 \text{ 円} \times \text{株式数 } 2 \text{ 億株}}{\text{純資産 } 640,000 \text{ 百万円}} = 1.03$$

PBRは1割れしていない。

× ② 毎月分配型の投資信託、社債は対象外

○ ③

《問 6》 Mさんは、Aさんに対して、Y 投資信託を購入する際の留意点等について説明した。Mさんが説明した次の記述①～③について、適切なものには○印を、不適切なものには×印を解答用紙に記入しなさい。

- ① 「運用管理費用（信託報酬）は、投資信託の保有期間中、信託財産から日々差し引かれる費用です。一般に、Y 投資信託のようなインデックス型の投資信託は、アクティブ型の投資信託よりも運用管理費用（信託報酬）が低い傾向があります」
- ② 「NISAのつみたて投資枠の対象商品のなかには、Y 投資信託のようなインデックス型の投資信託だけでなく、アクティブ型の投資信託もあります」
- ③ 「NISAの非課税保有限度額は、1,800 万円です。そのうち成長投資枠は 1,200 万円、つみたて投資枠は 600 万円とされているため、つみたて投資枠のみで 600 万円を超える金額の投資信託を購入し、保有することはできません」

解答

- ①
- ②
- × ③ つみたて投資枠は 1,200 万円、成長投資枠は 600 万円